

経営概要書

法人名：

秋田空港ターミナルビル 株式会社

(株 7)

代表者職氏名	代表取締役社長 佐藤 充
所在地	秋田市雄和椿川字山籠49

所管部課名	観光文化スポーツ部交通政策課
設立年月日	昭和53年11月10日

【沿革及び県の出資理由】

昭和53年11月に会社を設立し、昭和56年6月、新秋田空港開港と同時にビル管理運営と直営売店2部門の本格営業を行っている。空港ターミナルビルは公共交通を担う施設であり公共性を求められることから出資している。

【出資者】 (H26年度当初)

(単位:千円、%)

区分	団体数	出資額	構成比
秋田県	1	250,000	33.3%
秋田市	1	80,000	10.7%
その他	17	420,000	56.0%
計	19	750,000	100.0%

【事業】

①主たる業務

1. 空港ターミナルビル及び付帯施設の賃貸業
2. ビル内売店及びレストランの直営事業

②事業実績

(単位:百万円、人)

事業名等	H23年度	H24年度	H25年度
不動産事業収入	646	638	630
直営事業収入	502	503	683
付帯事業収入	72	66	65
国内線搭乗者数	1,078,403	1,097,535	1,164,657

③H25年度事業概要及び26年度事業計画・目標

(H25年度事業概要) 不動産事業では、国内線ビル2階フロアリニューアル工事が完成しグランドオープンしました。また、電線共同管路敷設工事、熱源機器更新工事、太陽光発電設備導入工事を実施しました。直営事業の売店では、新規に県産酒の販売を開始し、インター初ショップでの取扱いも始めました。直営レストランでは秋田特産比内地鶏や桃豚を使用した和食メニュー、秋田銘酒利き酒セットを新たに提供して店舗の魅力アップに努めました。その他、開港記念・グランドオープン記念イベントやクリスマスイルミネーションの設置、さらには「冬祭り」を開催いたしました。

(H26年度事業計画・目標) 不動産事業一高齢者にやさしい施設を目指し、到着用エスカレーターを新設いたします。また、受変電設備の更新を実施し施設の延命並びに省エネ化を図ります。直営事業(売店)-秋田の自然や文化を感じる空間で、楽しく買い物が出来て喜んでいただける店舗を目指してまいります。同(レストラン)-入りやすい店構えにするため入口付近の整備を行い、日替ランチ等を含め、秋田の食材を使った新しいメニュー提供に努めてまいります。国民文化祭の開催に向けて、観光情報の提供の充実と強化を図るほか、航空利用者以外の新たな客層を開拓するため集客イベントを実施いたします。

【組織】

①役員数(H26.7.1現在)

(単位:人)

区分	取締役		監査役	
	H25	H26	H25	H26
常勤	3	3	1	1
内、県退職者	2	2		
内、県職員				
非常勤	7	7	2	2
内、県退職者				
内、県職員	1	1		
計	10	10	3	3
内、県関係者	3	3		

②職員数(H26.4.1現在)

(単位:人)

区分	H25	H26	正職員 平均年齢 45.7歳	正職員 平均勤続年数 21.4年
正職員	12	11		
内、県退職者				
出向職員	1			
内、県職員				
臨時・嘱託	45	51		
内、県退職者	1			
計	58	62		
内、県関係者	1			
			正職員平均年収(H25年度)	6,238千円

役員報酬支給対象者数(H25年度)	8人
役員報酬支給対象者平均年齢	58歳
平均役員報酬額(H25年度)	2,550千円/年

【財務】

①損益計算書

(単位:千円)

区分	平成24年度	平成25年度
売上高	1,207,559	1,378,643
売上原価	323,777	449,729
売上総利益	883,782	928,914
販売費及び一般管理費	649,216	760,188
人件費(売上原価含む)	220,308	237,808
営業利益(損失)	234,566	168,726
営業外収益	5,249	1,865
営業外費用		
経常利益(損失)	239,815	170,591
特別利益	1,619	16,368
特別損失	34,553	48,782
法人税・住民税・事業税	79,448	54,988
当期純利益(損失)	127,433	83,189

②貸借対照表

(単位:千円)

区分	平成24年度	平成25年度
流動資産	1,312,749	820,534
固定資産	2,230,818	2,437,925
資産計	3,543,567	3,258,459
流動負債	470,789	161,503
短期借入金		
固定負債	159,834	138,399
長期借入金		
負債計	630,623	299,902
資本金	750,000	750,000
利益剰余金等	2,162,944	2,208,557
純資産計	2,912,944	2,958,557
負債・純資産計	3,543,567	3,258,459

退職給与引当状況	(単位:千円)		
	要支給額	引当額	引当率(%)
	124,511	124,511	100%

区分	平成24年度	平成25年度
県の貸付金残高	—	—
県の損失補償残高	—	—
県の債務保証残高	—	—

【県の財政支出】

(単位:千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	支出目的・対象事業概要等
補助金	1,800	1,600	16,368	貨物地域保安警備及び国際線ビル保安施設設置費用他に対する一部補助
委託費				
指定管理料				
貸付金				

経営評価表

法人名：

秋田空港ターミナルビル 株式会社

(株 7)

1 主な経営指標

項目		単位	H23年度	H24年度	H25年度	H23-24増減	H24-25増減
健全性	自己資本比率	%	88.06	82.20	90.80	△ 5.86	8.60
	借入金依存率	%	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流動比率	%	509.77	278.84	508.06	△ 230.93	229.22
収益性	剰余金（△欠損金）	千円	2,072,985	2,162,944	2,208,557	89,959	45,613
	経常利益率	%	19.41	19.77	12.36	0.36	△ 7.41
	総資本利益率	%	7.40	6.77	5.24	△ 0.63	△ 1.53
効率性	総資本回転率		0.38	0.34	0.42	△ 0.04	0.08
	職員1人当たり経常収入額	千円	21,064	21,277	23,802	213	2,525
	人件費比率	%	18.66	18.17	17.23	△ 0.49	△ 0.94

2 経営目標の達成状況

経営目標		区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
指 経営改善目標	経常利益（千円）	目標	200,000	200,000	150,000	150,000
		実績	237,144	239,815	170,591	
	事業量（直営事業収入）（千円）	目標	493,000	506,000	550,000	558,000
		実績	502,237	503,247	683,212	
指 事業成果	売上額（千円）	目標	1,207,000	1,211,000	1,240,000	1,249,000
		実績	1,220,043	1,207,559	1,378,643	
	空港利用者（イベント等）の増（人）	目標	5,000	5,000	5,000	5,000
		実績	3,200	2,600	2,600	
顧客満足度指数		目標	80	80	80	80
		実績	67	67	73	

3 経営状況及び課題、経営目標の達成状況についての自己評価

＜25年度の収支状況＞

不動産事業収入では、国際チャーター便（36便）就航が増えたことにより施設使用料収入が増加しましたが、航空会社の事務室等一部返還により賃貸料収入及び管理費収入が減少したことから、前期比1.2%減の629,947千円となりました。また、直営事業収入では、2階フロアのリニューアル効果や酒販売事業の新規開始により売店売上が大きく伸びたこと、2階フロアに移転したオープンカフェの売上も順調に推移したこと、このほか国際チャーター便就航等により免税売店の売上が伸びたことから、前期比35.8%増の683,212千円となりました。付帯事業収入では、航空旅客数の増加に伴いラウンジ「ロイヤルスカイ」が順調に稼働したことから増収となりましたが、景気低迷と国内線ビル直営店等2階フロア再配置事業に係わる工事等に伴い、広告収入が減少したことから、前期比1.7%減の65,484千円となりました。売上原価では、直営店舗売上増に伴い前期比38.9%増の449,729千円、販売費及び一般管理費では、2階フロアのリニューアル工事等に伴い消耗品費や減価償却費が増えたことから、前期比17.0%増の760,188千円となり、その結果、営業利益は168,726千円、経常利益は170,591千円、当期純利益は83,189千円となりました。

＜顧客満足度調査の結果を受けて実施する取組＞

館内の案内板、表示板について見直しを実施し改善を図ります。また、従業員の接客対応などについては、館内従業員を対象とした接客研修を行うなどしてスキルアップに努めます。

＜H25年度経営評価指摘事項（早期の改善が望まれる事項）＞

指摘事項：なし 措置状況：

4 総合評価（計算書類等の資料による評価）

A 概ね良好	B 改善の余地あり	C 改善措置が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・国内線ビル2Fフロアのリニューアル効果等により、売上高は前年度に比して171,084千円増加した。また、これに伴う事業経費の増加やリニューアル工事に係る減価償却費等により、営業費用（売上原価・販売費及び一般管理費）は前年度比で236,924千円増加した。よって、営業利益は前年度比65,840千円減少の168,726千円となった。経常利益は前年度比69,224千円減少の170,591千円、当期純利益は44,244千円減少の83,189千円となった。 ・利益剰余金等は2,208,557千円と期間損益の水準に比して十分であり、財務基盤は安定している。 ・経営改善指標については、「経常利益」、「事業量」ともに目標を上回った。事業成果指標については「売上額」は目標水準を確保しているものの「空港利用者（イベント等）の増」は伸び悩み目標に達していない。 		